



新春特別インタビュー

前への一歩が踏み出せる病院づくり——清水達夫

健康にプロポーズ

寒い冬、ぬくぬく薬湯をたのしもう

シリーズ 情熱白衣④

健全な自己愛こそが患者愛を創る——田中 昌

大阪赤十字病院94年のその時

憧れの「赤十字」マークが輝くその日まで(1)

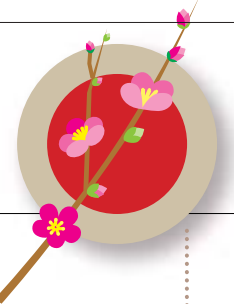


科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
一般内科		友野	武呂	坂井智美	友野	有馬	
			三井				
糖尿内科		隠岐	花岡	田中	隠岐	武呂	
				花岡			
		隠岐	花岡	田中	隠岐	武呂	全て予約制
				花岡			
内分泌科満		田中	隠岐	武呂	田中	花岡	
内肥		田中	隠岐	武呂		花岡	全て予約制
血液内科		坂井智美	有馬	通堂	赤坂	通堂	
		赤坂					
		通堂	有馬	通堂	赤坂		全て予約制
			有馬				
消化器内科		米門	津村	大崎	杉之下	圓尾	
					大鶴	松田	
						蜂谷・國立	全て予約制
肝臓内科		喜多	大崎	木村	國立	高松	
					國立	高松	全て予約制
胆・膵臓内科		蜂谷	辻	友野	辻	福山	
消化		(予約制)	福山				
			辻				全て予約制
免疫・リウマチ科		竹内	竹内	竹内			
		竹内	竹内	竹内			全て予約制
腎臓内科		渡部	鄭	鄭	鄭	渡部	
		渡部	鄭		鄭	渡部	全て予約制
循環器科		滝本	垣田	桂川	田中	稲田	
		林	柏井	稲田	桂川	田中	
		神原	田中	大塚	神原	垣田	
		林	柏井	稲田	桂川	田中	全て予約制
		神原	田中	大塚	神原		
心臓血管外科				南		南	
				南		南	全て予約制
小児科		新居	金岡	田中	新居	金岡	
		山本	住本	葭井	肩野	砂川	
		田中	新居	山本	住本	田中	
外科		岡本	亥埜	加茂	瀬尾	井ノ本	
		亥埜	東山	中島	有本	浮草	
		鍛	古家	祝迫	三木	東山	
				中島	鍛		
				浮草	井ノ本		
整形外科		富原	担当医	富原	浅野	担当医	
		大浦	富	牛尾	大浦	(渡邊)	
		牛尾		大谷	清水		
		清水		富原			
リハビリテーション科		渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	
		渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	
脳神経外科		担当医	岡本	担当医	岡本	岡本	
			伊藤		鳴海	小室	
			山名		山名	鳴海	
					伊藤		
					小室		
神経内科		金田	竹内	安井	鈴木	加藤	
		鈴木	加藤	金田	加藤	鈴木	
		竹内	安井				

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
呼吸器科		吉村	久保	網谷	西坂	若山	
		網谷	田原	若山	田原	吉村	
		西坂	網谷		久保	黄	
		黄					
		吉村	久保	網谷	西坂	若山	全て予約制
		網谷	田原	若山	田原	吉村	
		西坂			久保	黄	
呼吸器外科			弘野	渡辺		中出	
				田中			
産婦人科		針田	姫野	松本	関山	三瀬	
		木下	松本	姫野	木下	針田	※平成15年1月14日より実施
		関山	馬場	針田	三瀬	馬場	
泌尿器科		西村	西村	大森	西村	大森	
		金子	金子	小堀	金子	前川(信)	
眼科		吉田	担当医	吉田	担当医	坂上	
		加賀森下		森下・加賀		岡本・木枕	
		木枕・坂上		坂上	岡本・木枕	森下・加賀	
		岡本		岡本・木枕		木枕・岡本	
耳鼻咽喉科		箕山	岩永	箕山	田邊	岩永	
気管		担当医	與那嶺	柿木		担当医	
食道科		岡野	柿木	與那嶺	担当医	岡野	
		田原	担当医	田原		田原	
皮膚科		本田	堀口	堀口	藤井・本田	堀口	
		松島	太田	松島	松島	藤井	
		藤井	本田	藤井		本田	
			堀口				
			松島				
形成外科		大井	柴田	中井	大井	柴田	
精神神経科		吉田	早川	上田	土戸	吉田	
		上田	土戸	吉田	早川	早川	
			担当医	上田	土戸	土戸	
放射線科		石垣	藤堂	石垣	藤堂	藤堂	
		太田	太田	藤堂	太田	石垣	
		藤堂	石垣	太田	小嶋	太田	
		小嶋	小嶋	小嶋	西川	小嶋	
		西川	西川	西川		西川	
		太田	太田	藤堂	藤堂	太田	
		小嶋	石垣	小嶋	太田	石垣	
		西川	小嶋	西川	小嶋	小嶋	
歯科		柚木	杉立	松本	担当医	親里	
		松本	松本	杉立		松本	
		杉立	柚木	柚木		杉立	
		親里	親里	親里		柚木	

あけましておめでとうございます。皆様、今年はどうな抱負を持って新年をお迎えになられましたでしょうか。私は、今年笑顔を増やさない1年にしようと思っています。ニコリ笑う、スマイル、微笑みというのは大変に素晴らしいことです。嬉しいとき、楽しいときに顔をほころばせる表情というのは、他の動物には見いだせない人間特有の行動だそうです。怒る、怒りというのは他の動物にもあるようですが、なぜか笑うというのは人間のみにあるようです。笑いは人に伝染し、その笑顔を見、笑い声を聞いた人たちが、皆楽しい気持ちになり、皆が明るい生活を出発するようになるというのは、実に素晴らしいことです。したがって、笑顔は幸福を招きますし、“笑う門には福来たる”の言葉どおり、健康をも招きます。どうかみなさんも、人生に笑いの持つ意味をともに考えてみませんか。本年もよろしく願っています。(NH)

2003年の新年号ということで、新本館の建設、新しく生まれ変わる当院について、清水達夫院長にインタビューしました。



前への一歩が踏み出せる病院づくり

大阪赤十字病院院長◎清水達夫

●新本館の建設工事は順調に進んでおりですが、本計画の現在に至るまでの経緯についてお聞きしたいのですが。
清水 実は、新病院建設の構想は20年以上前からありました。本来は、もう少し早くというのが当初の予定だったんですが、さまざまな諸事情で、今日に至ってしまいました。建築物の老朽化、館内の導線の複雑さ、設備面、そして何よりも暗くて古いということ、患者さんにとって、非常に迷惑をおかけすることが現状には多かったです。新本館の建築着工への思いは、念願でした。21世紀の新しい病院をテーマに今回は院内で建設プロジェクトチームを編成し、モデルとなる全国の病院を見学し、参考に

なる事例を今回の計画に出来るだけ取り入れるようにしました。
 ●具体的に患者さんにとっての利点はどんなところでしょうか。
清水 待ち合いホールに光庭（吹き抜け）をとり入れたように、患者さんが来院されたとき、病院、という心理的な負担を出来るだけ減らすよう、明るく開放的な雰囲気とすることを心がけました。機能面と設備面では、まず外来部門では、待たせない病院をめざして、予約診察の充実を図ります。また、受付についても敷料をまとめたブロック受付の設置やオーダーリングシステムを導入して、診察行為の迅速化も徹底していきたいと思っています。そして、新しく総合診療科というものを設けます。これは患者さんが来院された時どの科の診察を受ければいいのか分からない方への窓口でもあります。そして、患者さんの隠れた病気を発見することも、非常に重要なことです。カウンセリングができる相談窓口も新しくできます。いつでも誰でも医療や病気について、気がねなく聞ける、そんな体制と環境を新本館では作



新館イメージ図

ります。最後に本誌「びりぶ」について院長の思いをお聞きしたいのですが。
清水 従来、病院にはないコミュニケーション誌を作りたいと思っています。名前の「びりぶ」は信じるという意味です。本誌の中で、職員の素顔を紹介することで患者さんが医師や看護師へ親しみをもちたい、また信頼関係の足がかりになっていければと思います。現在、病室であったとしても、一日も早く元気になっていただき、それぞれの患者さんがお持ちの夢、希望にまた一歩ふみ出したい、そのための力になれるように「びりぶ」をこれから育てていきたいと思っています。

カモの雄がきれいなのは...



オナガガモの求愛行動

ふしぎ自然紀行「鳥たちがかくカモたちの冬」
 木々の落ち葉がかさこさ冬の訪れをささやく頃、大阪市内でも、淀川や大阪城公園・鶴見緑地・万代池などにたくさんいる種類のカモたちがやって来ます。日本にやってくるカモのほとんどは、雄だけがそれぞれの種に特有な、よく目立つ美しい羽色をしています。一方、雌は地味で、どの種類か区別に困るほどお互いよく似ています。ヒトと違って「う」なぜ、雄だけが美しいのでしょうか。実は、カモはシベリアの厳しい寒さを避けるためだけに渡ってくるのではないのです。カモたちは、日本でその年の結婚相手を探さねばならないのです。いろいろな種が混じり合って冬を越すカモ類にとって、まちがいでなく自分と同じ種の結婚相手を見つけることは、自分の子孫（遺伝子）を次の代へ残すために大変重要なことです。カモ類では、ふつう雄は子育てにはまったく関与しません。そこで雌は、この時期、「みてくれだけ（？）」で雌に認めてもらうため、よく目立つその種の特徴やさらに、特有な求愛行動を進化させたというわけ



●最後に本誌「びりぶ」について院長の思いをお聞きしたいのですが。
清水 従来、病院にはないコミュニケーション誌を作りたいと思っています。名前の「びりぶ」は信じるという意味です。本誌の中で、職員の素顔を紹介することで患者さんが医師や看護師へ親しみをもちたい、また信頼関係の足がかりになっていければと思います。現在、病室であったとしても、一日も早く元気になっていただき、それぞれの患者さんがお持ちの夢、希望にまた一歩ふみ出したい、そのための力になれるように「びりぶ」をこれから育てていきたいと思っています。



ヒドリガモの求愛行動

美しい羽色をしています。一方、雌は地味で、どの種類か区別に困るほどお互いよく似ています。ヒトと違って「う」なぜ、雄だけが美しいのでしょうか。実は、カモはシベリアの厳しい寒さを避けるためだけに渡ってくるのではないのです。カモたちは、日本でその年の結婚相手を探さねばならないのです。いろいろな種が混じり合って冬を越すカモ類にとって、まちがいでなく自分と同じ種の結婚相手を見つけることは、自分の子孫（遺伝子）を次の代へ残すために大変重要なことです。カモ類では、ふつう雄は子育てにはまったく関与しません。そこで雌は、この時期、「みてくれだけ（？）」で雌に認めてもらうため、よく目立つその種の特徴やさらに、特有な求愛行動を進化させたというわけ

寒い冬、ぬくぬく薬湯を楽しもう

自分だけのアイデア風呂を

健康にプロポーズ



寒 いこの季節、なんといっても楽しみは入浴。冷えてカチカチになったからだ

が芯からポカポカ温って、一日の疲れがじわーとやわらぐお風呂での時間は何といつても至福の時間。家に帰って、コートを脱ぐとお風呂に直行という方も多いのではないだろうか。温泉気分も味わえて心の充足感も大きい薬湯はそんな入浴時間をもっと贅沢なものにしてくれそう。

さて、薬湯は、植物を湯に入れることによって通常の入浴以上に体に効用をあたえてくれるわけですが、疲労回復、かぜ予防、神経痛、冷え性、気管支の炎症と入れる薬草や花によって効能はさまざま。また、春はたんぽぽや桜、夏はラベンターや桃の葉、秋は菊や金木犀、そして冬はみかんやしうがと季節感も楽しませてくれます。今回は冬の季節に私たちの身近なもので楽しむ薬湯をご紹介します。春まだ遠い1月と2月、毎日の薬湯カレンターを作って寒い冬に体を癒してあげましょう。

松葉湯

正月飾りの松の葉を水から火にかけて、12〜20分煮出す。（1回200g〜250g）煮汁だけ取り出して、風呂の湯の中に入れる。
 【効能】 神経痛、腰痛、関節炎、ストレス解消、かぜ、安眠

ミカン湯

ミカンの皮にはリモネンというが含まれていて、血行促進を促す効果があり体を温めてくれる。生のミカンの皮を20個ほど布袋に入れて湯の中に浮かべる。
 【効能】 かぜの予防、冷え性、美肌

大根薬湯

大根1本分の葉を吊るして2日間半干しにし、これを細かく切つて布袋に入れて、水の状態から沸かす。大根の葉にはビタミン類、ミネラル、カルシウムが豊富。
 【効能】 かぜの予防、冷え性、美肌

シヨウガ湯

ヒネシヨウガを1回40g〜50gを皮ごとすり下ろして、汁を濾して湯の中に入れる。その2倍の量のシヨウガを薄切りにして布袋に入れて、湯に浮かべる。
 【効能】 咳きや喉の痛み、炎症、気管支の炎症、かぜの症状を緩和



四季野菜料理

冬「春菊」を毎日食べてお肌（NO.1）

旬の野菜はおいしい元気！
 鍋物がおいしい冬、鍋料理の名脇役はなんといっても「春菊」。「菊菜」「無人菊」「ふだん菊」「六月菊」といろいろ呼び名があるようです。春に黄色い花をつけ、菊に似た独特の香りを持つことから「春菜」という名前がついたと言われていますが、関西では「菊菜」で親しまれています。原産地は地中海沿岸で千五百年前から日本に渡来したそうです。しかし、ヨーロッパでは觀賞用として栽培されているだけで食用としているのは東アジア地域だけだそうです。こんなにお鍋物がおいしい冬、鍋料理の名脇役はなんといっても「春菊」。「菊菜」「無人菊」「ふだん菊」「六月菊」といろいろ呼び名があるようです。春に黄色い花をつけ、菊に似た独特の香りを持つことから「春菜」という名前がついたと言われていますが、関西では「菊菜」で親しまれています。原産地は地中海沿岸で千五百年前から日本に渡来したそうです。しかし、ヨーロッパでは觀賞用として栽培されているだけで食用としているのは東アジア地域だけだそうです。こんなにお鍋物がおいしい冬、鍋料理の名脇役はなんとももったいない話です。さて、この「春菊」は栄養面では緑黄野菜の主役なんです。鉄・カルシウムなどのミネラルが他の野菜に比べて多く、また食物繊維が多く含まれているので、便秘に効果があります。それに200gで一日に必要なビタミンAも摂取できるのです。その他ビタミンCやB2も豊富なので、冬の肌荒れ、かぜ予防にもなります。



鍋物と一番相性がいいですが、おひたしやてんぷら、おでんの中にもさっと入れるのも美味。あの独特の香りと風味は「春菜」ならではのおいしさをそこなわ



ないように食べる直前にさっと火をとおすことがポイントです。

栄養学④ カプサイシン

ちょっとためになる 栄養学④
 カプサイシン
 栄養課 伊藤 大翼

カプサイシンについて
 唐辛子の辛味成分です。辛味の程度は品質により差があり、鷹の爪は辛味が強く、また小さい果実の品質ほど辛味成分が多く含まれています。辛味は種子部と胎座部に多く、果肉部にはごく少量しかありません。

体内のエネルギー消費を促進させる
 体内に入ったカプサイシンは、中枢神経を刺激して副腎皮質からアドレナリンなどのホルモンを促すため、エネルギー代謝が盛んになって体内の貯蔵脂肪の分解が進みます。唐辛子を食べたあと、体が熱くなった、汗をかいたりするのはこのため、運動をしたと

- きと同じように熱エネルギーとなつて体外に放散されます。さらに毛細血管を収縮して、心臓の動きを活発にしますが、血圧の上昇作用がありません。これらの作用から、カプサイシンは肥満予防、強精、老化予防に効果があるといわれています。
- 食欲を増進させる**
 辛味は、舌や胃を刺激して食欲をすすめます。また、料理に塩味つけないでも、辛味によって料理がおいしく食べられるという利点もあり、結果的には塩分のとりすぎを防ぎ、高血圧を予防します。食欲増進は、肥満予防に結びつかないのではないかと疑問がわきますが、ラットを使った実験では、
- ① 肝臓や筋肉内のグリコーゲンの分解を促進し、肥満を予防する。
 - ② 体内脂肪を燃焼させてエネルギー消費を促進し、肥満を防止する。
 - ③ 胃腸内の殺菌作用
 - ④ 食欲増進、健胃作用

健全な自己愛こそが 患者愛を創る

学生時代から、アメリカでの研究留学を志していた田中医師は、昭和62年に米国デューク大学心臓病理学へ渡来。約3年間のアメリカ生活で日本とアメリカの医療の現場の違いを感じながら、日本の今後の医療のあり方について多くの事学んだと話す。「アメリカはよく言われるように個、プライベートをもっと大切にしている。病院という施設の中でも患者さんのプライベート面は、非常に重視されてきたね。中にはホテルのようなサービスでもなす病院もあって、患者さんに対しての心くばりには驚きました。」

忘れられない恩師との出会い

田中医師がもともと影響を受けたのが研究室のボス、ライマー先生だそう。ライマー先生は、超一流の心臓病理学者であり、環境問題にも取り組んでおられた人です。人間の病というテーマに取り組みの同じように、地球環境汚染は地球の病として尽力をそそがれていました。また、家には、たくさんの鳥たちを飼っておられ、そんなライマー先生のライフスタイルを横で見させていたとき、地球上に生存する命の尊さを僕はさげすみ教えてもらった気がします。「しかし、悲しくもライマー先生は昨年逝きました。」



最後に予防医学という話になった。「当院でも、院外で健康セミナーを実施することがあります。先日は近くのデパートに医師たちが出向いて行き、健康と運動、食生活について相談を受けたら、血圧を測ったりということをしたんですね。今、予防医学ということが世間でよく言われていますが、このように、病院の外で多くの人へ、医師が病気の治療以外に健康維持のアドバイスや相談できる機会が必要ですね。「治すことよりも、病気に冒されないためには予防医学が重要である」と、21世紀の医師のあり方を話してくれた。

来年の抱負は、という最後の質問に、テニスを来年から始めるとか、恩師のライマー先生は仕事はもうそろそろ、自分の時間も大切にしていた人であったと答えた。自分の愛する時間を持つことは、心の余裕が生まれるということもライマー先生から田中医師へ受け継がれている。



MASARU TANAKA
田中 昌
循環器科部長

昭和26年9月20日生まれ。昭和54年、京都大学医学部卒業。京都大学学術部附属病院内科、兵庫県立尼崎病院内科、京都大学大学院医学部研究科を経て、昭和62年米国デューク大学心臓病理学教室にて研究に従事。平成元年帰国。帰国後、京都大学医学部第三内科助手。平成8年大阪赤十字病院へ赴任。内科副部長、循環器科副部長を経て現在に至る。

平成8年、京都大学医学部附属病院から、当院の内科副部長へ赴任。2年前に院内誌に掲載された「歩け、歩け」について、聞いてみた。「本院に赴任したとき、古い建物に住んでいたが、日々の動線の長さにはびびりました。万歩計



デューク大学心臓病理学研究室で仲間たちとテニスを遊ぶ田中医師（左から）

大阪赤十字病院94年のその時

憧れの「赤十字」マークが輝くその日まで(1)

明治から大正時代へ、その頃、腕と胸元に「赤十字」マークをつけた紺色サージの目録看護婦が世間で注目を浴び、当時の若い女性達の間で、話題となっていたようです。古木の桜が満開の頃、そんな姿に憧れて夢と希望に胸をふくらませながら養成所の門をくぐりぬけた多くの新入生、さぞかし楽しい養成生活を送れること期待していたでしょう。しかし、待ち受けていたのは、厳しく大変な重労働でした。

入学から六月までの三ヶ月は教室の学科期間でこの頃までは、まだまだ、看護学生たちも張り切っていたようです。ところが、実務見学で病院の現場に出た頃から、だんだんと彼女たちの笑顔が薄れてきました。看護学生の日々は早朝に起きて、まずは、病院に走っていき配属先の掃除、それが終わってから朝八時まで寄宿舎にかえって、朝食をとり、そして授業。それから、病院で実務見学の時間



看護講義（講堂）

ところが見学だけではなく上級生から与えられた仕事を忠実にこなさなければならなかったのです。緊張と重労働の連続の一日が終わってぐっすりとなり、夕暮れに照らされて、自分の長い影を見つめながら宿舎に帰る看護学生の姿が目につかぶようです。まして、大阪の高台の夜は蒸し暑くて、睡眠不足に悩まされていた看護生が多く、「これが、将来赤十字看護婦になれるか試金石」なんてことを当時は言われていたそうです。そんな彼女たちの想いの場だったのは養成所と宿舎の間にあつた庭園。そこにいた猿に、看護学生が婦長のニッケネームをつけていました。生徒たちは、「あの婦長は元気がなくなつた。」「あの婦長はいけず、がはげしくなつた。」など、面白がつて大騒ぎをしている時が唯一のおしゃべりの時間であつたと聞いています。

八月の夏休みになると、それぞれが、たくさんのお土産話と誰よりも母に制服姿を見せたいという気持ちで飛ぶように故郷へ帰っていききました。夏休みが終わる頃、厳しい寮に戻りたくないという弱気になった看護学生も少なくなつたようです。しかしそんな時に力づけられたことは、厳しい養成所生活を共にしている看護学生にもう一度会いたいという思いと未熟な私たちでも待つてくれている患者さんのおうれしそうな笑顔だったと、ある看護師が90年誌に当時の思い出を語っています。



第一寄宿舎

おひめの三知識

寒さが本格的になりかぜの季節が到来しました。今回はかぜ薬についてお話ししましょう。

かぜとは

いろいろなウイルスによって引き起こされる病気で、ウィルスを追い出そうとする身体の反応が、発熱、鼻みず、せき（咳）、たん（痰）、くしゃみなどの症状になって現れます。

かぜ薬とは

かぜによるそのような困った症状をやわらげるものです。熱を下げ、のど、関節痛の痛みをやわらげる解熱鎮痛薬、くしゃみ・鼻水を起すヒスタミンという物質の動きを抑える抗ヒスタミン薬、咳を抑える鎮咳薬、ネバネバした痰をサラサラにして、痰の切れをよくする去痰薬、これらの薬を混ぜ合わせた総合感冒薬等が、症状に合わせて処方されます。かぜをひいて身体に抵抗力が低下すると、細菌に感染しやすくなるため、予防的に、またはすでに感染している場合は治療のため抗菌薬が処方されることもあります。細菌を殺したり、増えないようにする薬ですから途中で勝手にやめず指示通りの服用が大切です。

このように症状をやわらげて、「体力の消耗」「眠れない」等の苦痛を防ぎ、自然治癒力が十分発揮できるよう手助けするのがかぜ薬です。温かくして、休養を十分とり、早く治すようにしましょう。（薬品管理課長 高田成子）

病氣と仲良く付き合う術

かぜは万病のもと

俗に「かぜ」と呼ばれる疾患の歴史は古く、古代ギリシャのヒポクラテスの時代にまでさかのぼることができま。正式には「かぜ症候群」といい、主に鼻腔や咽頭、喉頭などの空気の通り道である上気道が急性のカタル性炎症（カタルとは「流れる」の意味）を起している状態を指します。くしゃみや鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳、痰などの呼吸器症状に加え発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの全身症状や時に吐き気、嘔吐、下痢などの消化器症状を伴いますが、気管支炎や肺炎などの合併症がなければ通常は一週間程度で治癒する経過良好な疾患群です。その原因のほとんどが種々のウイルスによるものですが、一部の例外を除いてウイルスに対する有効な薬剤はないために、治療としては一般療法、対症療法が基本となります。一般療法として安静、加温・加湿、水分補給などが、対症療法として解熱、消炎、鎮痛、鎮咳などがありますが、特に乳幼児や高齢者、基礎疾患を持つ患者さんは発熱や食欲低下により容易に脱水に陥るために注意が必要です。極端な高熱時は摂食障害や睡眠障害のために体力の消耗をきたす場合があり、（異論もありますが）解熱剤の使用

用も考慮すべきでしょう。うがい薬であるポセリノン（アソジソングル®）には多少とも抗ウイルス作用があり、口内薬（トローチ）には抗菌薬を配合しているものもあるので症状に応じた使い分けが有効です。また鼻汁や鼻閉に対しては一般総合感冒薬が使用される場合が多く、抗ヒスタミン作用により眠気伴う時があるので車の運転などは控えるようにしましょう。もちろん細菌感染の徴候がある時などは抗菌薬の使用も考慮することはいつでもあります。なおインフルエンザウイルスについては最近開発された抗ウイルス薬の有効性が証明され、特に早期に使用することと発熱期間を短くし重症化を防ぐことが可能になってきています。予防に関しては手洗いやうがいがある程度の効果があるといわれており、さらにインフルエンザウイルスについてワクチンの接種が有効であると考えられています。

古より「かぜは万病のもと」といわれてきました。かぜは肺炎などの合併症を引き起こすばかりでなく、その影を隔てている重大な疾患を見逃してはいけないという戒めでもあります。たかがかぜとあなどらず、症状が長引けば一度は最寄りの医療機関を受診するようにしましょう。

こんな時こそ形成外科

2. けがのいろいろ

形成外科 大井 克之

今回のテーマは外傷（けが）です。「皮膚のけが」というと、すり傷、切り傷、やけどなどを想像される方が多いと思いますが、「切り傷は縫う」、「すり傷ややけどは毎日消毒」と思っておられる方が多いのではないのでしょうか？切り傷は確かに縫いますが、形成外科ではほとんどの場合、すり傷ややけどを毎日消毒して、患者さんを苦しめたりはしません。浅い傷には現在良い被覆材（貼り薬）がありますので、最初に傷を洗ってそれを貼っておくだけです。数日後、貼り薬は下に新しい皮膚ができれば自然にはがれ落ち、それで治療終了になります。この方法では治った後のきずあとが目立たないことも事実ですが、最大のメリットは「患者さんが処置の際につらくないこと」です。やっぱり痛くないことが一番ですね。

ナースレポート 4 心ゆるれる日々



よしむら みねこ
吉村 峰子
昭和30年11月2日生。昭和49年大分県大分高等学校卒業。昭和52年3月大阪赤十字看護専門学校卒業。昭和52年4月に大阪赤十字看護婦として3号病舎勤務。産婦人科外来、中央材料室、耳鼻咽喉科外来を経て、現在耳鼻咽喉科外来看護係長。昭和54年に結婚。2児の母。

若い時代の経験を財産に

吉村看護婦が看護専門学校へ入学した頃は、また全寮制だったぞうだ。インタビューはなつかしい当時の思い出からはじまった。「朝8時から夕方までびっしり授業でした。でも寮生活はとても楽しいものでした。当時の看護学生には、九州の人が多く、寮では九州弁が飛び交っていましたね。夏休みなどのお休みで故郷に帰ったら、皆それぞれお土産を買ってきては、それぞれおすそわけしたり。お菓子を囲んでおしゃべりしたりと、そのことがとてもいい思い出になっています。」親元を離れて、一人見知らぬ大阪へ。心さびしくもあり、不安もあったが先輩たちが生活の事まで相談のつてくれたぞうだ。「全寮制ってよかったですよ。朝晩、先輩、同級生と共にすることで、家族のような絆が生まれましたね。そう思うと、通学制の今の看護学生は、すこし気の毒かな。」

看護師になって2年後に結婚。翌年に長女を出産、その翌年長男を出産、とにかくまたたく間に、歳月が過ぎる。「産前は8週間、産後7週間の産休をいただいたのですが、長女は職場復帰とともに院内の保育園であすかつてもらいました。そのような施設があつたのはとても恵まれていました。」出産についてはおもしろいエピソードがある。吉村看護師は小柄なこともあり、患者さんには好婦と気づかれていなかったが、看護師になって2年後に結婚。翌年に長女を出産、その翌年長男を出産、とにかくまたたく間に、歳月が過ぎる。



1997年11月和倉温泉にて（左から）白井、宮里、吉村、的場、見良津、西山各看護師

外来のご案内

診療科目			
●内科	●循環器科	●心臓血管外科	●脳神経外科
●外科	●整形外科	●リハビリテーション科	●産婦人科
●神経内科	●呼吸器科	●呼吸器外科	●気管食道科
●泌尿器科	●眼科	●耳鼻咽喉科	●精神神経科
●皮膚科	●形成外科	●麻酔科	
●放射線科	●歯科	●小児科	

受付時間（月～金）	
初診の方	— 月曜日～金曜日 午前8時30分～午前11時30分
再診の方	— 月曜日～金曜日 午前8時45分～午前11時45分
診療開始は	— 午前8時45分からです

お問い合わせ
☎06-6771-5131(代表)

診察券は
診察券は全科共通で永久に使用いたします。ご来院時には必ずお持ちください。

保険証等は
保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。



みなさまからのご意見お待ちしております

「病院に対しての要望・意見があるのにどこに伝えればいいの?」
とっておられるみなさまもたくさんいらっしゃると思います。
当院では、院内2カ所に「患者さまの声」という投書箱を設置
しています。場所は本館1階内科外来付近コインロッカー横、本
館2階医療社会事業部付近階段前にあります。昨年11月からは、
ご意見を記入して頂く用紙もリニューアルし、みなさまから貴重
なご意見をたくさん頂いております。

当院に対するさまざまなご意見・ご要望、今ご覧になっておられる「びりーぶ」へのご意見・ご感想、来年新築される当院新本館へのご要望など、みなさまが日頃お感じになっていらっしゃる事をご記入頂き、「患者さまの声」にお入れ下さい。
みなさまからのご意見を真摯に受け止め、改善できる点は早急に改善していきたいと考えています。なお、メールでもみなさまからのご意見・ご質問を受け付けておりますので、メールアドレスは、当院ホームページ（「びりーぶ」の裏面にアドレス記載）をご覧ください。

VOICE 患者さんからの声

予約して診察に来ましたが、1時間以上待たされました。これでは、何のための予約が分かりません。改善してください。

ご迷惑をかけて申し訳ございません。診療内容によっては、時間の変動が大きくなる場合もありますが、受付した時間に診察が行えるように配慮し、今後もこの問題に対する改善策を検討してゆきますので、ご了承下さい。

先日、玄関のトイレ付近でポリッシャーをかけて清掃されていましたが、洗剤の煙があがっていました。来院者のない時に行ってください。

ご迷惑をお掛けいたしました。清掃担当者へは、周囲の状況や時間帯等を配慮して、清掃作業を行うように指示し、改善を図りましたので、何卒ご容赦ください。

ご存じですか? 科?

① 脳神経外科とは?

お気付きの症状があればご相談ください

脳神経外科

「脳神経外科の病気」というと、頭痛や頭の打撲・脳震盪・脳内出血を思い浮かべる方が多いと思いますが、意外に身近な症状のことがあります。例えば、顔面の激しい痛みといった典型的なものだけでなく、歯が痛いのにも虫歯もなく治らないといった場合に三叉神経痛である場合があります。また、眩暈（めまい）や顕著な身体のだらつきの原因が脳腫瘍や脳血管障害であったりすることもありますし、手足のしびれやこわばりといった症状や足のふらつきの原因が頸椎症であることがあります。更に、片方の眼が急に見えなくなった場合や両側の眼の視野が狭くなったような場合に、脳腫瘍や脳血管障害が原因であることも稀ではありません。お気付きの症状があれば脳神経外科にご相談下さい。

当科ではクモ膜下出血・脳動脈瘤・脳内出血・脳梗塞といった脳血管障害の他、脳腫瘍、脊髄・脊髄疾患、顔面けいれんや三叉神経痛（顔面の痛み）などの機能的疾患を含め広範囲にわたっておこなって



脳神経外科外来看護師及び受付スタッフ

おり、年間約300件の手術および血管内治療を行っています。更に、パーキンソン病、本態性振戦に対する脳深部刺激療法といった最新の治療についても施行に当たっての体制を整えております。

現在4人の日本脳神経外科専門医を含む5人の専任医師が診療を行っています。手術治療方針は全員

で検討するチーム医療を行っています。外来は初診については毎日午前中、再診は予約制（火・木・金）とし、救急患者への対応は24時間年中無休の体制を採っています。



TOPICS FILE

トピックス & ニュース



決意新たに本年7月の竣工を目指して 新本館建設工事が加速



屋上部分建設現場のようす

平成13年1月からスタートいたしました新本館建設工事は、皆様のご理解とご協力により、順調に進捗しており、本年も継続して鋭意工事を進めてまいります。本年はいよいよ7月に新本館が竣工し、その後移転及び既存建物の解体工事が順次行われる等、当院にとって大変重要な年となることから、職員一同一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

さて、現在は外装工事がほぼ完了し、新本館の全貌が見渡せるようになりました。昨年はこの外装工事を完了させることを大きな目標として、工事を進めてまいりました。

具体的には、建築工事は地下部分の躯体工事が4月上旬で全て完了し、引き続き地上部分の鉄骨組立工事に着手いたしました。鉄骨が組立てられていく様子には目を見張るものがあり、9月24日には上様式を執り行い、約6ヶ月間で地上部分の鉄骨組立工事が完了いたしました。また、併行して行っておりました外壁及びバルコニーの取付工事は10月で、各階床部分のコンクリート打設工事は11月で完了し、現在、区画間仕切り等の内装工

事を中心に進めております。

電気・衛生・空調の各設備工事においては、各階配管配線等の工事を中心に行っておりますが、9月頃からは各設備機器の搬入も順次行われ、また、昇降機設備は11月から一部エレベーター工事に着手する等、設備工事もより本格的な工事へと進んでおります。

本年は、新本館竣工後に移転及び既存建物の解体工事等が行われることから、患者さまをはじめ皆様には院内動線の変更や騒音、振動等で何かとご迷惑をおかけすることと存じますが、対策等を十分検討した上で、工事を進めてまいりますので、益々のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

第2回市民健康フェスティバル 近鉄百貨店で盛況

第2回健康フェスティバルは、11月16日（土）に近鉄百貨店上本町店（パールルーム）において開催しました。

第1回は、本年3月当院で行いましたが、今回は雰囲気を変えて、朝から夕方まで近隣の近鉄デパートで行いましたので参加の方々もかなり増加致しました。

講演は8題とし、いろいろな分野の話題を取り上げさせて頂きました。講演会場はほぼ満席で、どの講演にも席を立つことなく熱心に聞き入っておられ、質疑応答では熱心に質問される方で、時間が不足気味になるほどでした。

また、相談コーナーでは、皆様方の相談に応じられるように致しました。検査体験コーナーには、検査機器の台数も前回

より増やして設置しました。沢山の方が来訪され、ご自分の検査データに一喜一憂される光景が各所で見られ、心配と思われた方や詳しく知りたい人は相談コーナーに回られておられるようでした。

いろいろ至らぬ点もあったと思いますが、盛況のうちに終えることができました。今後も皆様のニーズにお応えできるよう内容にして、続けて行きたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。



糖尿病についての講演会のようす

さらなる高度の医療をめざして

「肝炎専門医療機関」「地域がん診療拠点病院」の指定を受けました!!

このたび、当院の診療実績が認められ、大阪府から「肝炎専門医療機関」として、また厚生労働省から「地域がん診療拠点病院」として指定されることになりました。

これらは、大阪府や国が推進している肝炎、がんの医療体制強化事業の一環で、最新の適切な治療が受けられる一定基準を満たす病院を指定し、患者さまが医療機関を選択する際の目安となるものです。

当院は、これからもさらに「心のかような高度の医療」を目指してまいります。

講習会 & 相談会

当院では、診察とは別に様々な講習会・相談会を行っております。関心をもたれた方は、是非ご参加下さい。

- ①開催日時 ②場所 ③対象者 ④講師・代表者
- ⑤その他(特に記載がなければ、会費は無料)

1. 内科 お問い合わせ先は内科外来(407)へ

- 糖尿病教室（1コース4回実施）
 - ①毎週木曜日（第5週は除く）13時30分から15時30分まで
 - ②内科外来19番 栄養相談室
 - ③糖尿病の患者様とその家族（当院での受診の有無は問わず）
 - ④医師、看護師、管理栄養士

●外来患者栄養相談

- ①月曜日～金曜日までの毎日午前中
- ②内科外来19番 栄養相談室
- ③当院外来診察において、主治医から相談指示を受けた患者様
- ④管理栄養士

●入院患者栄養相談

- ①月曜日～金曜日までの毎日
- ②内科外来19番 栄養相談室
- ③当院入院中で、主治医から指示を受けた患者様(予約制)
- ④管理栄養士

●大阪日赤みどり会 (日本糖尿病協会、大阪糖尿病協会加盟)

- ③糖尿病で、大阪赤十字病院で医学的治療を受け、糖尿病教室を受講した人、及び役員会で承認した人。
- ④患者会、医師、看護師、管理栄養士
- ⑤一泊研修やウォークラリーなどを通じて、健康管理や衛生指導及び会員同士の親睦を図ります。（内科外来にて、活動内容を掲示しています。）入会費¥1,000、年会費¥2,000。医療社会事業部にて入会受付を行っています。

2. 呼吸器科 お問い合わせ先は呼吸器科外来(437)へ

- 喘息教室
 - ①毎月第3木曜日 15時から16時
 - ②呼吸器科外来処置室
 - ③当院受診の有無に関わらず、どなたでも参加可能
 - ④呼吸器内科医師(偶数月)、薬剤師(奇数月)

3. 外科 お問い合わせ先は外科外来(421)へ

- のぞみの会
 - ①毎月第3木曜日（8月、12月は除く）14時30分から16時まで
 - ②外科外来待合室
 - ③乳癌手術後の患者様(当院受診の有無に関わらず、参加可能)
 - ④外科医師、薬剤師 他

4. 産婦人科 お問い合わせ先は産婦人科外来(427)へ

- 両親学級（1コース2回実施）
 - ①毎月第1・2土曜日 10時から12時
 - ②11号病舎
 - ③当院で受診の妊婦の方と、夫の方
 - ④産婦人科外来看護師、助産師、管理栄養士
 - ⑤受講費¥1,500(事前に支払)

5. 耳鼻咽喉科 お問い合わせ先は耳鼻咽喉科外来(418)へ

- 道声会(どうせいかい)
 - ①毎週月・水曜日 13時から14時まで
 - ②看護専門学校会議室
 - ③喉頭摘出手術を受けた患者様(当院受診の有無に関わらず、参加可能)
 - ④喉頭摘出した会員が、ボランティアとして発声練習の指導にあたります。
 - ⑤パイプ式人工咽頭、電動式人工咽頭、食道発声の3種類の代用音声の指導を実施。入会費¥2,000、年会費¥3,000。会員同士の親睦会等も、実施しています。

6. 薬剤部 お問い合わせ先は薬剤部(490)へ

- おくすり相談コーナー
 - ①月曜日～金曜日 9時30分から15時まで
 - ②正面玄関薬剤部横
 - ③当院受診の有無に関わらず、相談可能
 - ④薬剤師